

福島町橋梁長寿命化計画

福島町

令和4年9月改定

福島町の橋梁長寿命化計画

§ 1. 計画全体の方針

1. 老朽化対策における基本方針

(1). 長寿命化計画の背景と目的

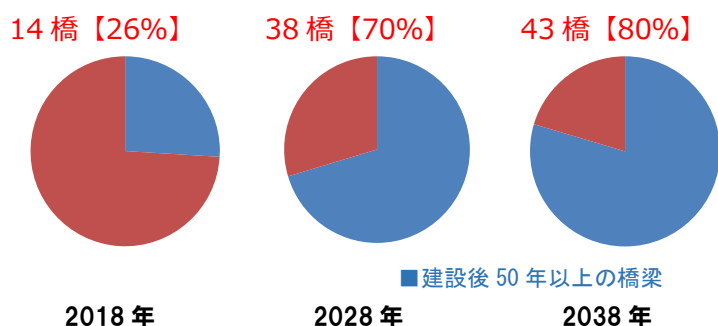
【背景】

- ・福島町が管理する道路橋は、現在54橋あり、このうち建設後50年を経過する高齢化橋梁は、14橋で全体の26%を占める。
- ・20年後には、この割合が80%を占め、急速に高齢化橋梁が増大する。
- ・今後、増大が見込まれる橋梁の修繕・架替えに要する経費に対し、可能な限りのコスト縮減への取り組みが不可欠である。

【目的】

- ・定期点検による橋梁の状態の把握、予防的な修繕および計画的な架替えを着実に進め、橋梁の長寿命化と橋梁の修繕・架替えに係る費用を縮減します。
- ・重要な道路ネットワークの安全性・信頼性を確保していくために長寿命化修繕計画を策定します。

建設後50年以上の橋梁箇所数の増加



橋種別の橋梁数(H28年現在)



穂内橋(橋長18.6m)
昭和44年供用開始(48歳)

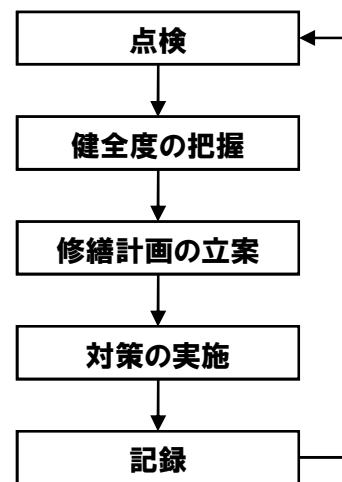
(2)対象橋梁

| | 1級町道 | 2級町道 | その他町道 | 合計 |
|----------------|------|------|-------|----|
| 全管理橋梁 | 10 | 10 | 34 | 54 |
| うち計画の対象橋梁 | 10 | 10 | 34 | 54 |
| うちこれまでの計画策定橋梁数 | 10 | 10 | 34 | 54 |
| うちH29年度計画策定橋梁数 | 10 | 10 | 34 | 54 |

長寿命化修繕計画の計画周期は以下のとおりとし、定期点検結果を受け随時更新・修正を行う。

(3)長寿命化修繕計画の基本的な方針

- ☆点検マニュアルに基づき、専門家による**橋梁点検を実施し、橋の健全度を把握**します。橋梁点検は、おおよそ5年ごとに行なっていく予定です。
- ☆それぞれの橋において、点検により把握した健全度に基づき**最適な修繕計画(低コストかつ長寿命化を図れる計画)を立案**します。
- ☆全対象橋梁において、**長寿命化修繕計画を策定し、計画に基づいて順次、修繕を実施**します。
- ☆点検および修繕した結果は、**橋梁台帳および点検調書等に記入し電子データとして保存**します。

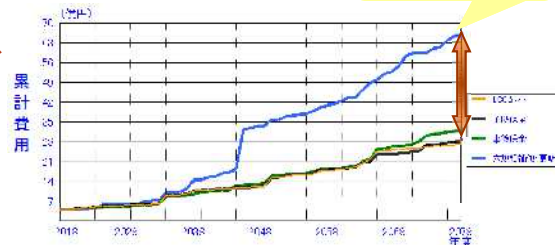


橋の維持管理の流れ

(4)長寿命化修繕計画の効果

- ☆今後60年の修繕・架替え事業費(予防保全型、大規模補修・更新型)を試算した結果、**予防保全型の累計は、約30億円、大規模補修・更新型の累計は65億円となり、予防保全型の維持修繕を実施することにより約35億円の**コスト削減効果**が期待できます。**

保全・更新費用の推移



60年間で
約35億円
コスト削減

(5)意見を聴取した学識経験者

意見を聴取した学識経験者
北海道大学 名誉教授 大沼 博志

2. 新技術の活用方針

◆町内の道路橋の点検や修繕の実施に当たっては、新技術情報システム (NETIS) や点検支援技術性能カタログ (案)などを参考に、新技術等の活用を検討し、事業の効率化やコスト縮減を図ります。

主な対応は以下の通りとします。

- ①定期点検の実施に当たっては、NETISや点検支援技術性能カタログ (案)の活用を検討し、橋梁状況・点検期間・コスト縮減の観点から最適な点検実施方法を選定します。
- ②修繕工事の実施に当たっては、新技術情報提供システム (NETIS) 等の新材料・新工法の活用を検討します。

<新技術一例>



3. 費用の縮減に関する具体的な方針

◆今後の老朽化対策に必要となる費用の縮減

・修繕工事および定期点検においては、NETISや点検支援技術性能カタログ (案)を活用し、工事の高度化・効率化・工期の短縮化により、コスト縮減を図ります。

◆撤去・機能縮小などによる費用の縮減

- ・社会情勢や路線の利用状況の変化により、町道路線の統廃合が可能となるかどうかを検討し、当該橋梁の集約化・撤去を進めます。
- ・集約化・撤去を促進し、管理橋梁の高齢化に伴って増大することが予想される維持管理コストへ対応します。

§ 2. 短期的な数値目標およびそのコスト縮減効果

1. 集約化・撤去に関する短期的な数値目標

◆令和9年度までに、福島町が管理する橋梁全54橋を対象に集約化・撤去が可能な橋梁の有無を検討します。

2. 新技術等の活用に関する短期的な数値目標

◆令和9年度までに、福島町の管理橋梁全54橋に対して定期点検および修繕での新技術活用を検討し、そのうち1割程度での活用を目指します。

3. コスト縮減効果

◆橋梁定期点検および修繕等の実施に当たっては、NETISや点検支援技術性能カタログを参考に新技術等の活用を検討し、事業の効率化を行い費用縮減を図ります。

◆「新技術の活用」および「集約化・撤去」の検討の他、直営による点検を行うことによって大幅なメンテナンス費用の縮減を図ります。直営点検は全管理橋梁のうち、橋長が短く構造が単純な橋梁について検討・実施を目指します。

◆令和9年までに新技術の活用により約50万円程度、直営点検の実施により約150万円程度、合わせて約200万円程度の費用縮減を目指します。

§ 3. 個別橋梁事項

橋梁諸元・点検結果は別紙①【点検結果総括表】の通りです。また、個別橋梁の長寿命化対策年度・対策内容・対策に係る全体概算事業費・次回点検年度は別紙②【様式1-2】の通りです。

§ 4. 計画策定担当部署

計画策定担当部署



福島町役場 建設課 Tel:0139-47-3001